

INTERVIEW

市議会だよりメインインタビュー / オオサカポテト 代表 渡邊博文さん

令和6年6月市議会定例会で審議した、「新規就農者への設備導入支援に関する補助金」の補正予算に関連し、2022年に同補助金を活用し八尾市で新規就農された渡邊さんにお話を聞きました。



「農業を始めたのは何がきっかけですか？」
 転勤で愛知から大阪へ来て、趣味のラグビーやサーフィンがしづらなくなったことで、「やりたいことリスト」にあった農業をやってみようと、会社員をしながら趣味として週末農業を始めました。

「なぜ八尾で農業を始めたのですか？」
 つてもないので、SNSで「大阪 農業」と検索し、いろんな農家さんにメッセージを送ったところ、話を聞いて畑を貸してくれたのが八尾の農家さんだったからです。

「専業農家を選択されたいきさつは？」
 週末農業から始め、収穫量が増えたことで副業として体験型農業や芋掘り体験をスタートしました。それを通して課題意識やみんなが農業に関われる環境があればいいのと感じ、専業農家になることを考えだしました。

「農業を通して実現したいことは？」
 ①子どもたちに体験の場をつくる②生活者と農業を繋げる③耕作放棄地をなくす、この3つのミッションを農業を通して達成していきたいです。

「今日、畑に来てくれている方は？」
 東大阪市にある就労継続支援B型事業所の方たちです。オクラの収穫や袋詰めをお願いしています。みんな、めっちゃ収穫作業が早いですよ！

「農福連携の良さはどこですか？」
 畑を働く場所にする事で、福祉的就労をしている方たちにとっては居場所となり、続けることでやりがいや自信にも繋がっていると聞いています。また、農家としては農作業の担い手として大変ありがたい存在です。

「今後の展開や次の目標はありますか？」
 最終的に「大阪をサツマイモの産地にする」という夢を掲げており、先に話した我々が大事にする「3つの思い」に共感し、農業を始める仲間を八尾から大阪中に増やしていきたいと思っています。

「農業をしたい方にノウハウを提供される？」
 農業をする上で困ることとして、栽培技術・農地・買い取り先が挙げられますが、僕たちが持つノウハウを共有することができそうです。

「農地や買い取り先もですか？」
 農地を持て余している方が声をかけてくれており、僕たちが活用しきれない土地を紹介したり、サツマイモを買い取って、形が悪くてもペーストや焼酎にして販売したいと考えています。



就労継続支援B型事業所の方によるオクラ収穫作業



耕作地を広げ夢を実現するためにトラクターも導入

表紙について



オオサカポテトのメンバー

今回の表紙を飾っていただいたのは、2022年に新規就農した若手農家団体「オオサカポテト」代表の渡邊博文さん（写真中央）。八尾市でサツマイモ栽培を行い、サツマイモの販売にとどまらず、育てたサツマイモを原料とした芋焼酎など、様々な製品が誕生しています。



「仲間が増えることに夢に近づきますね」
 実は、少しずつ仲間ができており、苗の提供などもしているんです。今後、農業仲間がどんどん増えていくことで耕作放棄地が減り、秋には大阪のあちこちで子どもたちのサツマイモ収穫イベントが行われている、そんな未来を描いています。

「八尾市に期待することはありますか？」
 暮らしや自然体験としての農業という側面からバックアップしてくれるとありがたいです。例えば、子どもの収穫体験のニーズは高まっているものの、体験費用の面からも一部の子どものみに限られるところを、市が旗振りをして学校行事のようになれば、八尾市の子どもたち全員が自然に触れる体験ができるようになると思います。

「八尾市議会の印象はどうですか？」
 議員の皆さんが普段何をしているかなどあまり分からないので、市民が議会を身近に感じられ、政治に興味を持つ人が増えたらいいなと思います。

編集後記

議会だよりを身近に感じていただく新たな取り組みとして、議案審査に関連した内容について、議会を飛び出し現場でお話を伺いました。取材にご協力いただきありがとうございました。

議会だより編集委員会（◎委員長 ○副委員長）

◎ 松田 憲幸 ○ 山中 宏
 木村 健二 川上 舞 福永 美智子 西川 あり 谷沢 千賀子